

畜産みやぎ

題 字
宮城県知事 村井嘉浩
発行所
仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号 一般社団法人 宮城県畜産協会 電話 022-298-8473
編集発行人
高橋正
印刷所
(株)東北プリント



第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会 肉牛の部出品候補牛の引き渡し
(令和3年5月10日 美里町 みやぎ総合家畜市場)

もくじ

CONTENTS

宮城県家畜改良増殖計画について……………2	〈畜試だより〉……………8
令和2年度生乳需給状況及び令和3年度生乳出荷目標について…3	〈衛生だより〉……………9
令和2年度家畜共済事業実績について……………4	農業大学校生の抱負……………10
令和3年度全農宮城県本部畜産部の事業方針……………5	価格安定対策事業の発動状況について……………10
第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会に向けて ～肉牛の部出品候補牛の引き渡し～……………6	〈New face〉……………11-12
宮城県ブラックアンドホワイトショウについて……………6	
宮城県内の集乳合理化の実施について……………7	
宮城県農政部家畜防疫対策室の設置について……………7	



**みやぎの
畜産情報
発信基地**

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.gr.jp>

畜産みやぎは上記ホームページからもご覧いただけます。



宮城県家畜改良増殖計画について

宮城県農政部畜産課

畜産の振興を図るためには、家畜の改良や増殖を計画的に行うことが必要であることから、家畜改良増殖法において、国（農林水産大臣）はおおむね5年ごとにそれぞれの家畜の能力、体型及び頭数等に関して10年後の目標を定めることとされています。

令和2年3月に国（農林水産省）が新たな家畜改良増殖目標を示したことから、県は、県内の家畜改良の実情や畜産を取り巻く環境を踏まえ、家畜改良等の専門知識を持つ関係者や生産者との連携のもと、令和3年3月に令和12年度を目標とした「宮城県家畜改良増殖計画」を策定しました。今回は、その主な目標値を抜粋して掲載しますので、今後の家畜改良等に御活用願います。

なお、詳細については、下記ホームページを御覧ください。

記

宮城県農政部畜産課ホームページ [https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/tikusanka/]

乳用雌牛の能力に関する目標数値（県平均）

	品 種	乳 量	乳 成 分		
			乳脂肪	無脂乳固形分率	乳蛋白質
現 在 (H30)	ホルスタイン	8,585kg	3.8%	8.8%	3.3%
目 標 (R12)	ホルスタイン	9,250kg	現在の乳成分率を引き続き維持		

去勢肥育牛の能力に関する目標数値（県平均）

	品 種	肥育開始時		肥育終了時		枝 肉 量 重 量	1日平均 増体量	(参考) 肉質等級
		月 齢	体 重	月 齢	体 重			
現 在	黒毛和種	ヶ月	kg	ヶ月	kg	kg	kg	89.8%
(R1)	交 雑 種	9.5	311	30.1	846	542.9	0.89	63.7%
	乳 用 種	6.2	—	27.0	878	560.7	1.03	—
	乳 用 種	6.0	—	22.4	789	447.1	1.11	—
目 標	黒毛和種	9.0	310	26~28	822~882	551~592	0.99	90.0%
(R12)	交 雑 種	7.0	290	25	881	574	1.08	70.0%
	乳 用 種	7.0	290	19	780	450	1.34	—

純粋種豚の能力に関する目標数値（全国平均）

	品 種	繁殖能力		産肉能力			
		1腹当たり 育成頭数	1腹当たり 子豚総体重	飼 料 要求率	一日平均 増体量	ロース芯 の太さ	背脂肪層の 厚さ
現 在	バークシャー	頭	kg		g	cm ²	cm
	ランドレース	8.0	45	3.2	700	28	1.7
	大ヨークシャー	10.2	59	3.1	831	35	2.0
	デュロック	9.8	58	3.0	864	35	1.6
	デュロック	7.6	43	3.0	981	34	2.2
目 標	バークシャー	8.5	47	3.1	740	30	1.7
(R12)	ランドレース	11.1	63	3.0	881	35	2.0
	大ヨークシャー	10.7	62	2.9	907	35	1.6
	デュロック	8.4	48	2.9	1,070	34	2.2

(生産振興班 齊藤 隼人)

令和2年度生乳需給状況及び令和3年度生乳出荷目標について

東北生乳販連宮城支所
みやぎの酪農農業協同組合

1. 生乳需給状況

宮城県

4月～3月の受託乳量は108,429トﾝ、前年同期比0.3%の減少となっております。また、3月の出荷戸数は427戸と前年より15戸減少しております。

2. 令和3年度生乳出荷目標

(一社)中央酪農会議では、令和3年度から3年間の増産・維持を基本とする中期需給安定化対策に取り組み、令和3年度の出荷目標数量は、各指定団体が畜安法に基づき取りまとめた年間販売計画の数量を基本とし、制度との一体的な運用を行います。

令和2年度宮城県生乳受託販売実績

(単位：kg、%)

団体名	4月			5月			6月			第1四半期	
	出荷戸数	前年比		出荷戸数	前年比		出荷戸数	前年比		前年比	
みやぎの	5,648,175	257	100.9	5,752,960	256	99.8	5,363,776	255	98.5	16,764,911	99.8
全農宮城	1,453,550	69	107.4	1,510,593	69	108.2	1,417,039	69	107.2	4,381,182	107.6
宮城酪農	2,378,913	116	100.7	2,466,115	115	101.7	2,294,790	115	100.6	7,139,818	101.0
宮城県	9,480,638	442	101.8	9,729,668	440	101.5	9,075,605	439	100.3	28,285,911	101.2

団体名	7月			8月			9月			第2四半期	
	出荷戸数	前年比		出荷戸数	前年比		出荷戸数	前年比		前年比	
みやぎの	5,410,196	255	98.9	5,290,742	255	101.3	5,065,462	254	96.7	15,766,400	98.9
全農宮城	1,415,249	69	107.9	1,388,183	69	112.1	1,339,450	69	110.6	4,142,882	110.1
宮城酪農	2,248,845	115	99.0	2,179,218	115	101.2	2,093,169	115	95.9	6,521,232	98.7
宮城県	9,074,290	439	100.2	8,858,143	439	102.8	8,498,081	438	98.4	26,430,514	100.5

団体名	10月			11月			12月			第3四半期	
	出荷戸数	前年比		出荷戸数	前年比		出荷戸数	前年比		前年比	
みやぎの	5,329,897	254	99.7	5,183,571	252	98.6	5,316,547	249	97.6	15,830,015	98.6
全農宮城	1,394,903	69	111.8	1,343,408	69	107.2	1,406,119	68	103.9	4,144,430	107.5
宮城酪農	2,220,824	115	99.3	2,176,243	115	97.9	2,270,186	114	99.2	6,667,253	98.8
宮城県	8,945,624	438	101.3	8,703,222	436	99.6	8,992,852	431	99.0	26,641,698	99.9

団体名	1月			2月			3月			第4四半期	
	出荷戸数	前年比		出荷戸数	前年比		出荷戸数	前年比		前年比	
みやぎの	5,438,312	247	99.1	4,949,830	247	92.9	5,557,440	247	96.2	15,945,582	96.1
全農宮城	1,429,075	68	100.6	1,345,017	67	99.8	1,530,245	67	104.6	4,304,337	101.7
宮城酪農	2,279,995	114	97.4	2,099,747	114	93.5	2,441,404	113	99.2	6,821,146	96.8
宮城県	9,147,382	429	98.9	8,394,594	428	94.1	9,529,089	427	98.2	27,071,065	97.1

団体名	R2年度計	
	前年比	
みやぎの	64,306,908	98.3
全農宮城	16,972,831	106.6
宮城酪農	27,149,449	98.8
宮城県	108,429,188	99.7

(販売課 村田孝志)

令和2年度家畜共済事業実績について

宮城県農業共済組合 (NOSAI宮城)

令和2年度の家畜共済事業実績を報告します。

畜産業を営む農業者の廃業等により戸数の減少傾向は続いています。引受頭数は延べ222,252頭（前年比99.8%）となりました。

共済金額では、共済価額の上昇に伴う補償金額の拡充や新規引受、短期引受により63,770,859千円（前年比で104.7%）となりました。

死産事故頭数は前年度と比較し、乳用牛は208頭減少したものの肉用牛では成牛及び胎児・子牛で336頭と増加し全体で124頭の増加（前年比102.6%）となりました。胎児の増体化による事故が増加しているほか、子牛の呼吸器・消化器の事故が増加しました。

病傷事故件数は前年度と比較し、乳用牛で882件減少し、肉用牛では90件の増加、全体では794件の減少（前年比98.2%）となりました。一方、酪農における肉用牛などで加入金額が小さいため病傷給付限度額を超過する事故が増加しており、診療に係る実農家負担は増加しています。

支払共済金は、死産事故で898,352千円となり前年度よりも82,480千円増加（前年比110.1%）となりましたが、これは事故頭数の増加によるほか、共済価額の増加及びこれに伴う支払限度額の増加と、共済価額の高い肉用牛（成牛）の事故の増加に因ります。

病傷事故は、613,893千円となり前年度よりも19,823千円減少（前年比96.8%）しました。これは、改正制度（病傷事故の1割自己負担）への移行と事故件数の減少に因ります。

妊娠中の親牛の飼養管理改善やワクチン接種などにより事故の未然防止に取り組んでいきましょう。また、子牛の呼吸器・消化器の疾病や周産期の疾病、乳房炎、繁殖障害は依然として多発しています。引き続き損害防止に取り組ましましょう。

NOSAI宮城では、畜産経営安定のため、これからも丁寧な説明に心がけて加入を推進してまいりますので、制度や補償内容についてお気軽にお尋ねください。

令和2年度家畜共済事業実績

	引受 (加入)			死産事故			病傷事故			
	頭数 頭	共済金額 千円	共済金額前年比 %	頭数 頭	支払共済金 千円	共済金前年比 %	件数 件	支払共済金 千円	共済金前年比 %	
旧 制 度	乳用牛等			0.0			0.0			0.0
	肉用牛等			0.0	1	158	0.1			0.0
	一般馬			0.0			0.0			0.0
	種豚			0.0			0.0			0.0
	肉豚			0.0			0.0			0.0
	計	0	0	0.0	1	158	0.1	0	0	0.0
新 制 度	乳用牛等	22,406	6,195,115	111.3	1,497	250,308	89.7			
	肉用牛等	117,590	56,379,506	104.4	3,249	647,760	120.7			
	馬	4	2,242	96.8	0	0	—			
	種豚	1,763	108,158	89.9	0	0	—			
	肉豚	15,676	149,968	69.2	15	127	112.2			
	計	157,439	62,834,988	104.8	4,761	898,195	110.1			
疾 病 傷 害	乳用牛等	14,445	256,365	95.3				11,482	188,137	90.2
	肉用牛等	50,312	679,264	95.3				33,504	425,757	100.2
	馬	3	52	0.0				0	0	—
	種豚	53	190	100.0				0	0	—
	計	64,813	935,871	95.3				44,986	613,894	96.9
合 計	222,252	63,770,859	104.7	4,762	898,353	110.1	44,986	613,894	96.9	

(第二事業部家畜課長 長江達哉)

令和3年度 全農宮城県本部畜産部の事業方針

全農宮城県本部畜産部

畜産事業を取り巻く環境は、生産面では、生産者の高齢化および後継者不足による規模縮小・廃業が続いており、生産基盤の脆弱化が進行している。また、素畜価格や飼料価格の高値基調により生産コストが高止する中、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、畜産物、特に肉牛と子牛価格は大きく下落する局面もあり、その後、価格は回復基調にあるものの、今後とも感染拡大の動向には注視が必要である。

消費面では、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、経済状況の悪化に伴う食肉消費における輸入割合の増加、国産消費量の減少が懸念される状況が続いている。コロナ禍の中で消費スタイルの変化が顕著に現れ、インバウンド需要や外食需要が減少する一方で、外出の自粛などから、量販店やeコマースによる内食需要が堅調に推移し、家計消費量は増加している。

食肉相場は、消費形態の変化やインバウンド需要の低下などから、下落傾向が懸念されるものの、一方で内食需要による国内消費や輸出の拡大により、需要の増加による価格の安定も見込まれる状況にある。

このように大きく変動する昨今の情勢から、生産性の高い畜産経営および消費者に軸足を置いた、生産・販売対策が強く求められる。

「繁殖牛生産基盤推進事業」により、和牛繁殖経営・和牛一貫経営に取り組む生産者への支援を継続し、地域内での生産振興による生産基盤の維持・拡大を図る。

一方、SNSやメディアを有効に活用した銘柄普及と消費拡大に取り組むとともに、輸出事業の取組強化と関係機関との連携による販路拡大など、肉畜販売事業の強化に取り組む。

また、来年の10月に開催される「第12回全国和牛能力共進会」鹿児島大会の成功と、「日本一」獲得を実現するため、生産組織および関係機関との連携のもと、出品対策の強化に取り組む。

さらに、担い手活動の強化策として、肉牛、繁殖牛に係る推進要領に基づき、担い手の育成・強化に取り組むとともに、農業高校や大学校および県内畜産関係団体と連携した「担い手対応策」の確立に取り組む。

1. 畜産生産基盤の維持・拡大

(1) 繁殖牛生産基盤

- ア. 簡易牛舎推進事業および和牛繁殖雌牛増頭対策(簡易牛舎)事業による規模拡大
- イ. みやぎ農業振興公社との連携による初妊牛生産事業の取組強化
- ウ. 優良雌牛保留対策事業による優良雌牛の保留推進
- エ. 繁殖成績向上対策としてICT等新技術の普及推進

(2) 肉牛肥育生産基盤

- ア. JA全農北日本くみあい飼料(株)との連携による生産基盤対策の実施

(3) 系統養豚生産基盤再構築推進事業による維持・拡大

(4) 生乳生産基盤維持対策事業・初妊牛供給による生乳計画生産の取組強化

2. 家畜市場事業の取組強化

(1) 子牛市場取扱頭数の維持・拡大

- ア. 日令・体重目標を設定した適正出荷の推進による子牛の品質向上・斉一化
- イ. 飼養管理改善による和牛子牛生産効率の向上

(2) 基幹種雄牛情報提供等による購買者誘致

3. 肉畜販売事業の取組強化

(1) 食肉卸業者・指定店との連携強化による仙台牛・宮城野豚等銘柄の普及拡大

(2) SNSやメディアを有効に活用した銘柄普及と消費拡大

(3) 輸出事業の取組強化と関係機関との連携による販路拡大

4. 全国和牛能力共進会対策の取組強化

(1) 「第12回全共」の成功に向けた出品対策協議会との連携による取組強化

(2) 「第12回全共」(種牛の部) 県代表牛の選抜と候補牛の調教管理指導会等による出品対策の強化

(3) 「第12回全共」(肉牛の部) 県代表牛の選抜と候補牛の定期巡回による飼養管理指導等による出品対策の強化

5. 担い手育成および組織活動の取組強化

(1) 和牛繁殖牛担い手育成推進事業およびJAグループ肉牛担い手事業による担い手の育成・強化

(2) 関係機関と連携した「担い手育成支援プログラム」の構築

第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会に向けて ～肉牛の部出品候補牛の引き渡し～

第12回全国和牛能力共進会宮城県出品対策協議会

第12回全共鹿児島大会が令和4年10月、鹿児島県で開催されます。宮城県では、県、全和登宮城県支部、JA全農みやぎ、県内JAなどで構成する第12回全国和牛能力共進会宮城県出品対策協議会を平成31年1月に立ち上げ、全共鹿児島大会へ向けた出品対策に取り組んでおります。

肉牛の部については、去る5月10日、みやぎ総合家畜市場において、出品資格を備えた去勢子牛の測尺・審査・評価を実施し、基準を満たした46頭が19名の肥育農家へ引き渡されました。

協議会では定期的に体尺測定や飼養管理指導等の巡回を実施し、血液成分分析や超音波肉質診断技術も活用するなど、“チーム宮城”一丸となって第11回全共宮城大会を上回る成績を目指して取り組みます。

■第12回全共鹿児島大会

- 最終比較審査 開催期間 令和4年10月6日(木)～10日(祝・月)
開催場所 種牛の部 霧島市 牧園地区
肉牛の部 南九州市知覧町 (株)JA食肉かごしま南薩工場

- 出品頭数(うち宮城県)
雄牛22頭(1頭)、雌牛268頭(13頭)、肉牛168頭(7頭) 合計459頭(21頭)

■肉牛の部候補牛の概要

出品区	本県の種雄牛
第6区 総合評価群(うち肉牛群)	洋系波
第7区 脂肪の質評価群	茂福久
第8区 去勢肥育牛	茂洋美・洋系波・茂福久



宮城県ブラックアンドホワイトショウについて

宮城県ホルスタイン改良同志会

令和3年6月に開催予定だった宮城県ブラックアンドホワイトショウにつきましては、宮城県内での新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、開催を中止することとしましたので、お知らせいたします。

(事務局：(一社)宮城県畜産協会 家畜改良課)

宮城県内の集乳合理化の実施について

宮城県酪農団体合理化検討会

集乳施設及び集乳路線の現状を分析し、合理化・効率化が図られる施設整備と運営について検討を加え、その実現を以って生乳生産者の負担軽減に資することを目的に、宮城県内3酪農団体は、平成28年8月に「宮城県酪農団体合理化検討会」を設立いたしました。

酪農家の高齢化や担い手不足等で都府県酪農基盤の弱体化による生乳生産量が減少し、集乳施設運営費や集乳経費等が重荷になることが懸念されており、経費の増加を回避するために集乳施設、集乳路線の合理化を実施することとなりました。

集乳施設の統廃合については、県内5ヶ所の集乳施設を3ヶ所(内1施設は業務委託)へ集約、集乳路線の再編整備にあたっては、錯綜路線を中心に集約し旧路線から約10路線の削減となりました。

また、岩手県南地域から一部生乳を仙北CSに受け入れることで、県域を越えた集乳合理化事業となりました。

令和3年3月31日(水)にはみやぎの酪農仙北CSにて、3団体のトップと来賓を迎え、オープニングセレモニーを実施し門出を祝いました。

今回の合理化による集乳事業者、路線数、生産者数は次の通りです。



テープカットの様子

【みやぎの酪農協 仙南CS】

集乳事業者	集乳路線数	生産者数
岩手雪運 株式会社	18	134

【みちのくミルク株式会社】

集乳事業者	集乳路線数	生産者数
株式会社 みやぎの運送	11	88
有限会社 岩倉急送	6	55
合計	17	143

【みやぎの酪農協 仙北CS】

集乳事業者	集乳路線数	生産者数
株式会社 みやぎの運送	14	105
有限会社 岩倉急送	4	46
合計	18	151

宮城県農政部家畜防疫対策室の設置について

宮城県農政部家畜防疫対策室

宮城県は、令和3年4月1日組織改編により、畜産課から家畜の伝染病予防や動物用医薬品の取締等を行う家畜衛生の部門を独立し、新たに家畜防疫対策室を設置しました。新しい室の人員は、室長1名、総括室長補佐1名(畜産課兼務)、衛生安全班5名の配置となり、衛生安全班については1名の増員となっています。

国内の家畜伝染病の発生状況として、豚熱については、平成30年9月に岐阜県の養豚場で確認されて以降、令和3年4月末までに関連農場を含め15府県67事例に拡大し、約24万頭の豚等を殺処分しました。

また、野生いのししの検査でも24都府県3,323頭に感染が確認されています。

一方、養鶏場の高病原性鳥インフルエンザについては、令和2年11月5日から令和3年3月14日までの約5か月間で、18県52事例の発生があり、関連農場を含め約987万羽の鶏を殺処分するなど、1シーズンの発生件数及び殺処分羽数は過去最大となりました。

本県では、養豚場での豚熱発生を予防するため、令和2年10月から豚熱ワクチン接種を開始し、令和3年1月までに、県内の養豚場141農場約17万頭への初回接種を民間獣医師の方々の協力を得て完了させ、現在は、新たに生まれる子豚等への接種を継続して実施しています。

また、令和3年1月には、高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された千葉県種鶏場の疫学関連農場の1つが本県の農場であったことから、一般県職員の動員のほか、市役所職員や建設業協会の方々の協力を得て、家きんの殺処分や埋却処分等の防疫措置を実施し、県内のまん延防止に繋げることができました。

このように、県が担う家畜衛生の業務は、以前と比較し大きく変化しており、特定家畜伝染病を含む家畜疾病への対応や発生予防のため、事前の防疫体制の整備強化や発生時の迅速な防疫措置、家畜飼養農場における飼養衛生管理基準の遵守指導が強く求められています。県では新体制のもと県内の各家畜保健衛生所と連携し、特定家畜伝染病等の発生・まん延防止に努めて参ります。家畜の飼養者や関係機関の方々におかれましては、これまで同様、家畜伝染病の発生予防について御協力願います。

(衛生安全班 石橋 拓英)

〈畜試便り〉

新しい飼料作物奨励品種の紹介

宮城県畜産試験場

畜産試験場では、県内における栽培に適した飼料作物の選定を行うため、栽培試験を実施し品種の生産性・生育特性を調査しています。

今回は、新しく宮城県の飼料作物奨励品種に指定された飼料用トウモロコシ3品種及びイタリアンライグラス1品種について紹介します。

飼料用トウモロコシ極早生品種「パイオニア93日」、「エスパス95」

飼料用トウモロコシ極早生品種「パイオニア93日」及び「エスパス95」は3年間（平成30年～令和2年）の栽培試験の結果、奨励品種に指定されました。「パイオニア93日」は雌穂割合が高く、子実利用が期待できます。「エスパス95」は、極早生品種の中で高い乾物・TDN収量性を持っています。栽培する際は、栽植本数を10a当たり7,500～8,000本（畝間75cmの時、株間約18cm）としてください。

表1 「パイオニア93日」及び「エスパス95」の主要な品種特性

商品名	品種名	早晚性	メーカー RM	乾物収量	TDN収量	耐倒伏性	耐病性	赤カビ耐性
パイオニア93日	P9027	極早生	93	○	○	○	○	○
エスパス95	SL0746	極早生	95	◎	◎	○	○	○

凡例 ◎：優れる ○：並

飼料用トウモロコシ中生品種「ゴールドデントKD777NEW」

飼料用トウモロコシ中生品種「ゴールドデントKD777NEW」は、3年間（平成30年～令和2年）の栽培試験の結果、奨励品種に指定されました。「ゴールドデントKD777NEW」は標準品種の「スノーデント125T」と比較して優れた赤カビ耐性を持ち、収量性等は同等程度です。栽培する際は、栽植本数を10a当たり6,000～6,500本（畝間75cmの時、株間約21cm）としてください。

表2 「ゴールドデントKD777NEW」の主要な品種特性

商品名	品種名	早晚性	メーカー RM	乾物収量	TDN収量	耐倒伏性	耐病性	赤カビ耐性
KD777NEW	KD777N	中生	127	○	○	○	○	◎

凡例 ◎：優れる ○：並

イタリアンライグラス早生品種「タチマサリ」

イタリアンライグラス早生品種「タチマサリ」は3年間（平成30年～令和2年）の栽培試験の結果、奨励品種に指定されました。「タチマサリ」は、標準品種の「はたあおば」と比較して草丈・収量性に優れています。播種量は10aあたり2～3kgとして下さい。

表3 「タチマサリ」の品種特性

品種名	早晚性	越冬性	草丈	耐倒伏性	耐病性	収量性
タチマサリ	早生	○	◎	○	○	◎

凡例 ◎：優れる ○：並

(草地飼料部 田中孝太郎)

〈衛生便り〉

豚熱ワクチン接種農場での豚熱の発生について

大河原家畜保健衛生所

令和3年4月2日に群馬県で、同月14日に三重県で、同月17日に栃木県で豚熱ワクチン接種農場における豚熱の発生が相次いで確認されました。

豚熱ワクチンは、接種をしても個体によっては免疫を獲得できない場合があります。また、全ての子豚に最も適切な時期にワクチン接種をすることは、管理上困難であることから、ワクチン接種農場においても感染を防除できない豚が存在する可能性があります。

感染を防ぐための適切なワクチン接種はもちろんですが、家畜防疫の基本は、飼養衛生管理基準の遵守徹底です。環境中にウイルスが存在することを前提として、人・物・車両によるウイルスの持ち込み防止(靴の履き替え、消毒、交差汚染防止措置)、野生動物対策(防護柵や防鳥ネットの設置・点検・修繕)等を徹底してください。

また、食欲不振や死亡頭数の増加等の豚熱を疑う症状が確認された場合には速やかに家畜保健衛生所にご連絡ください。

農家の皆様には、今一度、農場の防疫対策を確認し、衛生管理の徹底をお願いいたします。

飼養衛生管理基準の遵守の徹底

農場周囲における柵の設置



- ・ イノシシ、キツネ、タヌキなど野生動物や人の侵入を防止する。
- ・ 塀の設置が難しい場合も電柵とワイヤーメッシュを2重に設置することで効果が向上する。

畜舎周辺の除草や木の伐採



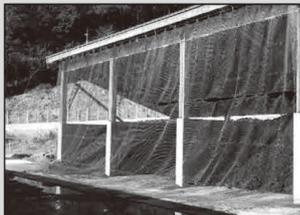
- ・ 畜舎周辺及び農場周囲に除草や木の伐採による緩衝帯を設置する。
- ・ 畜舎内外の整理・整頓・清掃に心がける。

畜舎における防鳥ネットの設置



- ・ 畜舎の屋根や壁の破損は随時補修する。
- ・ 畜舎開口部(出入口を含む)にネットを設置する
- ・ 定期的な点検し、ネット等の破損箇所は速やかに補修する。

堆肥舎等における防鳥ネットの設置



- ・ 堆肥舎や死豚保管場所は、食べ残り飼料等がカラスやタヌキなどの野生動物を誘引し、病原体が持ち込まれる可能性があるため、防鳥ネットやブルーシートをかぶせる。

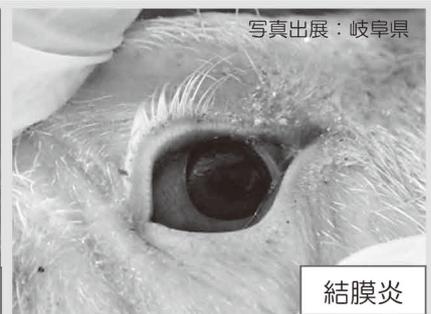
異状を発見したら直ちに通報を！ 特徴的な症状がなく、気がつきにくい疾病です



耳翼の紫斑



元気消失



結膜炎

写真出展：岐阜県

(防疫班 曾地雄一郎)

〈農業大学校生の抱負〉

将来の夢

宮城県農業大学校畜産学部
2学年 高橋 智久



私は将来、自宅の肥育経営を継ぎ、繁殖を取り入れた一貫経営をしたいと考えています。私の家では現在黒毛和種の雌牛を43頭肥育しています。幼いころから牛や田んぼが身近にある環境で育ち、牛の世話は生活の一部になっていました。そんな私は牛についてより深く学ぶために、宮城県加美農業高等学校に入学しました。高校はホルスタインの育成や搾乳、黒毛和種の繁殖、養豚を行っていて、こちらの飼養管理実習は初めての体験でした。中でも一番印象に残っているのは、ホルスタインの出産に立ち

会ったことです。農家の息子である私ですが、実は血を見るのが苦手であり手伝いできませんでした。しかし、生まれたばかりの子牛が自力で立ち上がった時はとても感動しました。この体験を機に私は和牛繁殖についても学びたいと思い、インターンシップでは父の知り合いの繁殖農家さんの下で3日間行き、繁殖について学びました。その農家さんに、「もっと深く学びたいなら農業大学校にでも行ってみなよ。」と言われ、私は農業大学校について調べたり、オープンキャンパスに参加したりして、進学することを決めました。

進学した目的は、和牛繁殖と肥育についてより詳しく学ぶことと、資格の取得です。1年生の時の先進農業体験学習では登米の繁殖農家さんのもとで例年よりも短い27日間、体験学習をさせてもらい、規模の拡大の仕方や経営方法などを間近で学ぶことができ、将来の経営設計を考えられるようになりました。また、資格取得では削蹄師や家畜人工授精師など、これから講習があるのでしっかり取り組んでいきたいです。

二年生になり残り一年もありませんが、大学校で出会った仲間たちとともに卒論や資格取得に向けて頑張っていきたいと思います。

価格安定対策事業の発動状況について

一般社団法人宮城県畜産協会

◎肉用牛肥育経営安定交付金（牛マルキン）の交付金単価

(単位：円)

販売月	肉専用種（宮城県）	交雑種（全国）	乳用種（全国）
令和3年1月	(概算払) 0.00円 精算払 0.00円	(19,405.4円) 22,759.2円	(39,958.7円) 43,453.8円
2月	(概算払) (168.45円) 精算払 2,342.25円	(79,618.1円) 82,541.7円	(45,662.9円) 48,483.9円
3月	精算払 0円	26,658.9円	54,922.5円

※令和2年5月以降の肉専用種は、積立金不足により国費分のみ(3/4相当額)の支払いとなります。

◎肉用子牛生産者補給金（子牛補給金）の交付金単価 令和2年度第4四半期 交付なし

◎肉豚経営安定交付金（豚マルキン）の交付金単価 令和2年度第1～4四半期 交付なし

●令和3年度肉用牛肥育経営安定交付金(牛マルキン)における登録肉用牛1頭当たりの負担金単価について

令和2年4月より肉用牛肥育経営安定交付金（牛マルキン）負担金の納付猶予となっておりますが、独立行政法人農畜産業振興機構より、負担金単価が公表されました。

つきましては、令和3年6月より以下の通り請求いたしますので、よろしく願いいたします。

品 種	肉専用種	交雑種	乳用種
負担金単価（1頭当たり）	5,000円	13,000円	11,000円

※手数料は含まず。

〈New face〉

宮城県北部家畜保健衛生所

町田 奈央



皆さまはじめまして。令和2年11月より北部家畜保健衛生所の防疫班に配属されました、町田奈央と申します。

出身は福島県で、平成30年3月に北里大学獣医学部を卒業しました。大学では獣医解剖学研究室に所属し、妊娠マウスにおける膈上皮の形態学的変化の研究を行ってきました。研究は好きだったので大学では顕微鏡や論文と向き合ってきましたが、学生

の時から病院やNOSAI、家畜保健衛生所等様々な実習に参加してきました。その経験から、獣医師として働くのであれば生きた動物に触れ合える仕事をしたいと思い、卒業してから2年半、仙台市の動物病院に勤め犬猫の診療に従事してきました。その中で臨床の基礎や動物を助ける苦勞と喜びを十分経験できたと感じ、獣医師として新たな知見を広げたいと考えるようになり、畜産分野を志望しました。

私が配属された北部家畜保健衛生所は管内に飼育されている家畜の頭数も多く、牛・豚・鶏、時には羊や蜜蜂など様々な家畜に関わることができ、常に新鮮な気持ちで働かせていただいております。しかしまだ家畜の大きさや業務内容に慣れず、配属されてから半年余り経ちますが未だに牛の採血にも四苦八苦し、先輩方のご指導なしにはなかなか前に進めない毎日です。一人前の県職員になれる日は当分先になりそうですが、日々の業務の中で学び成長する気持ちを忘れず、いつか頼れる県職員になれるよう精進していきたいと思っております。また、家畜の疾病に関する知識を身につけることはもちろんですが、農家さんをはじめ畜産に関わる方々とのコミュニケーションを大切に、信頼関係を築くことができる職員になることも目標の一つです。

未熟者の私ですが、どうぞこれからよろしく願いいたします。食べ物と動物の話が大好きなので気軽に話しかけていただくと大変嬉しく思います。

宮城県北部家畜保健衛生所

今井 勇志



初めまして。4月から宮城県北部家畜保健衛生所に配属になりました今井勇志（いまい ゆうじ）と申します。

実家は宮城県七ヶ宿町にありますが、出身は千葉県、小学校は兵庫県、中学高校は宮城県、大学は山形県で生活していて、今年3月に山形大学農学部を卒業し宮城県に戻ってきました。

大学では畜産研究室に所属し、稲のサイレージである稲ホールクロップサイレージの専用品種の種子生産について研究をしていました。研究室で卒論研究の傍ら牛豚鶏山羊の飼養管理などを行っていくうちに、大学で学んだ知識を活かして働きたい、そして今まで生活してきた中でも1番住みやすく自分に大きな影響を与えた宮城県で働きたいという思いから宮城県職員を志すようになりました。

趣味は読書なのですが、徒歩での散歩やゲームや水族館巡り、音楽を聴くことなども好きで最近では観葉植物を育てるといったこともしています。

現在働き始めて1か月と少しになりますが、家畜保健衛生所というのは非農家に生まれた自分にはこれまでの人生の中で全く関わりのなかった組織であり、畜産に関わることになった大学生活中においても授業で簡単に役割の説明をされたことやワクチン接種の際に関わったくらいのもので知識見聞のない組織だったものですので、いざ働き始めると初めて目にする事柄がいままで学んできた知識よりも圧倒的に多く、赴任してから勉強の毎日でした。しかし先輩方から業務についていろいろなことを教えていただき知識を深めていくうちに、家畜保健衛生所がたいへん大きく宮城県の畜産に関わっていることに驚き、同時に自分がこれから果たすべきものの大きさを痛感しました。未だ学ぶべきことの多い若輩者ではありますが、いち早く宮城県の畜産業に貢献できる人物となるべく、邁進していきたいと思っております。

大河原家畜保健衛生所

岸田 竜馬



はじめまして。令和3年4月より大河原家畜保健衛生所防疫班に配属となりました、岸田竜馬と申します。出身は宮城県亶理郡山元町で、今年3月に北海道にある酪農学園大学を卒業しました。大学では動物生殖学研究室に所属しており、主に大学附属農場、学外農場での乳牛の繁殖検診を行っていました。大学で学んだ知識を活かして、地元宮城の畜産を支えることができると考えています。

趣味は釣りで、時間があればリフレッシュを兼ねて県内の海や川でのんびり釣りを楽しみたいと思っています。また、仕事を始めてから運動不足気味なので、健康のために学生時代に行っていたバスケットボールや他のスポーツで体を動かしたいと考えています。

現在は牛、豚、鶏、蜜蜂の検査やワクチン接種等の業務にあたっています。勤めて1ヶ月が経ちますが、まだまだ慣れないことも多く、自身の知識、経験の未熟さを痛感しております。しかし、諸先輩方のご指導と農家の方々のご協力のおかげで、少しずつではありますが日々成長を感じています。

昨今の畜産事情を考えると、伝染病の蔓延を防ぎ、安全な畜産物を守る家畜保健衛生所の業務は非常に重要で、責任ある仕事だと感じています。これから多くのことを学び、自身の知識、技術の向上につなげ、宮城県の畜産の発展に尽力していければと思っています。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

.....

北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部

小宮 亮太



はじめまして。令和3年度4月より北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部に配属されました、小宮亮太と申します。出身は静岡県静岡市で東北大学農学部を今年3月に卒業しました。大学では動物遺伝育種学研究室に所属し、一塩基多型 (SNP) を用いた親子鑑定手法やゲノミック育種価について研究を行っていました。また、体を動かすことが好きで、サッカー、テニス、器械体操など様々なスポーツをしてきました。今後も休日などに時間を見つけて、ランニングや筋力トレーニングを続けてい

ければと思っています。

深く考えず選んだ農学部でしたが、動物が好きのため応用動物科学コースを選択し、畜産について学ぶにつれて畜産に関わる仕事をしたいと感じるようになり、畜産職を志しました。また、宮城県は地元ではありませんが、大学生活を通じて海や山など豊富な自然に魅力を感じ、今後も宮城県に住みたいと感じたため、宮城県での就職を決めました。

畜産振興班の業務内容は、共進会など家畜の生産振興に関する業務のほか、家畜伝染病や放射性物質検査等の安心安全に関する業務など多岐にわたっています。そして、管内各地の農家さんを訪問し、家畜と接して行う業務も数多くあります。大学在学中は主にパソコンを用い、既存のデータから牛の遺伝的能力を評価するための分析をしていたので、実習以外で家畜に接する機会はなく、現場を実際に見ることができる職場は日々新鮮で学ぶことが多くあります。配属されて約1ヶ月が経ちますが、まだ至らぬことばかりです。これから先輩方にご指導を頂きながらできるだけ早く仕事に慣れ、宮城県の畜産の発展に貢献できるよう頑張っていきたいと思っております。これからどうぞよろしくお願いたします。